

「100歳まで生きたい」



95歳男性が肺がん手術

松江



12月29日(金)

はつらつ
SUN-IN
創刊124年

発行所
山陰中央新報社
松江市殿町383 山陰中央ビル6階
郵便番号 690-8668
電話 総合案内 0852(32)3440
©山陰中央新報社2006

負担少ない「胸くう鏡」 元気に退院

肺がんになった九十五歳の男性が、松江市上乃木五丁目国立病院機構松江病院で腫瘍(しゅよう)の摘出手術を受け十二月下旬、退院した。学会などの資料には九十代前半の手術報告はあるが、九十五歳はないという。「長生きしたい」と手術を自ら希望した男性は、百歳まで生きる目標を胸に病院を後にした。

大田の伊藤さん

男性は大田市久利町の伊藤操さん。十一月の肺がん検診をきっかけに、右肺に腫瘍があることが分かり、ショックを受けたが、楽しみにしているデイサービス施設に通い

国立病院機構松江病院の職員から花束を受け取り、元気に退院する伊藤操さん

続けるため、早期手術を望んだ。松江病院は、高齢を考慮して、全身麻酔をして肺の一部を切除する手術に耐えられる体力、肺の機能があるかを検査。幸いにもがんの転移は見られず、負担の少ない胸くう鏡手術であればオペは可能と判断した。

手術では、最大径四センチの腫瘍と周囲を切除。手術時間は一時間二十九分で、出血量は十四ccだった。術後に伊藤さんは呼吸器リハビリなどを受け、一人で生活できるレベルに回復した。退院時に病院職員から花束を贈られた伊藤さんは「皆さんのおかげで元

クリック
胸くう鏡手術 体に数カ所の穴を開け、内視鏡

と手術器械を挿入し、テレビモニターに映し出される画面を見ながら行う手術法。開胸に比べて手

気になれた。来月からはデイサービスで俳句や短歌、暮を楽しみたい。百歳まで生きたい」。そう話す、しっかりとした足取りで病院を去った。執刀した松江病院の徳島武副院長は「年齢を理由に手術をちゅうちよするケースがあるので、今回の手術はお年寄りの励みになる」と話した。